

研究課題名：	長崎大学病院関連施設における進行・再発非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の治療効果、有害事象、効果予測因子の検討
所属(診療科等)：	長崎県島原病院 内科
研究責任者(職名)：	木下 敏明 (副院長)
共同研究機関：	<p>【代表施設・責任医師】 長崎大学病院 呼吸器内科 山口 博之</p> <p>【共同研究施設・研究分担者】 長崎原爆病院、長崎県島原病院、諫早総合病院、嬉野医療センター、佐世保市総合医療センター、長崎県五島中央病院、長崎医療センター</p>
研究期間：	2023年3月31日まで
研究目的と意義：	<p>肺癌において従来の細胞を殺す抗癌剤、癌に関わる特定のメカニズムをターゲットとした抗癌剤（分子標的薬）に加えて、癌を攻撃する自分の免疫を再活性化する抗癌剤（免疫チェックポイント阻害薬）が登場し、治療の現場で多く使われるようになっていきます。</p> <p>ニボルマブ（商品名：オプジーボ）、ペムブロリズマブ（商品名：キートルーダ）、アテゾリズマブ（商品名：テセントリク）が肺癌に対して用いられていますが今後さらに種類が増えていきます。臨床試験でそれらの効果や副作用は報告されていますが、実際の治療の現場での情報は少ないです。</p> <p>そこで我々は実際の治療の現場での免疫チェックポイント阻害薬の情報を集め、解析することで今後の治療に役立てたいと考えています。</p>
研究内容：	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 進行・再発非小細胞肺癌の患者さんで、2016年1月1日から、2022年12月31日の間に、免疫チェックポイント阻害薬による治療を開始した方 ●利用する情報 <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんの背景：性別、年齢、身長、体重、喫煙歴、癌の種類、遺伝子異常の有無、病期、パフォーマンスステータス、PD-L1発現率 ・治療歴：初回治療日、免疫チェックポイント阻害薬（種類、開始日、投与回数、最終投与日） ・結果：身体診察所見、バイタルサイン、血液検査所見、治療効果、副作用、治療経過、併用治療、前後治療 ・有害事象の分析に必要な臨床情報：血液検査所見、画像所見(胸部単純写真、胸部CT検 ●研究方法 カルテを見返して上記の情報を集めます。集められたデータから、どのような患者さんに治療効果があるのか、有害事象が多いのかなどを調べます。
問い合わせ先：	<p>【研究担当部門】 長崎県島原病院 内科 住所：島原市下川尻町7895 電話：0957 (63) 1145 FAX 0957 (63) 4864</p> <p>【ご意見や相談に関する窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 相談窓口：医療相談室 0957 (63) 1145 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝日を除く）</p>